「大会開催に向けた感染拡大防止ガイドライン」（抜粋）（福岡県高等学校体育連盟　令和２年６月４日現在）

１．大会を開催するにあたって

　本ガイドラインは、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を受けて、大会を再開するに当たっての基準や，再開後の開催時における感染拡大予防のための留意点についてまとめたものです。

　なお、今後の知見の集積及び各地域の感染状況を踏まえて、逐次見直すことがあり得ることにご留意をお願いします。

（１）３密（密閉、密集、密接）の発生が原則想定されないこと。（人と人との間隔はできるだけ ２ｍを目安に）

（２）大声での発声、声援、又は近接した距離での会話等が原則想定されないこと。

（３）その他、必要に応じて、適切な感染防止対策（入場者の制限や誘導、手指の消毒設備、マスクの着用、室内の換気等）が講じられること。

以上のような条件が整わない場合は、大会の中止又は延期をしていただく必要があると考えます。 また仮にこうした対策を行っていても、その時点の感染状況に応じて（緊急事態宣言や県内の感染拡大など）、大会の急な中止又は延期等の対応を高体連事務局からお願いすることがあります。

２ 大会開催・実施時の感染防止策について

県高体連として大会参加者が安全・安心に参加できるよう、開催にあたり留意すべき点をまとめたものです。以下の内容を踏まえつつ、各競技大会の特性を勘案して、感染防止のため実施すべき事項や参加 者が遵守すべき事項をチェックリスト化し、適切な場所に掲示するとともに、各事項がきちんと遵守されているか定期的に確認すること、参加者を含む関係者全員が感染防止のために取り組むことが必要です。

（１）大会参加者への事前対応

感染拡大防止のために、以下の事項を遵守できない参加者には、他の参加者の安全を確保する観点から、大会への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがありうることを周知する。

①　以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること（大会当日に書面で確認）

ア 体調がよくない場合。（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。

ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

②　マスクを持参すること。（競技中以外、控室での着替えや会話をする際はマスクを着用する）

③　こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。

④　他の参加者、大会関係者等との距離（できるだけ２ｍ以上）を確保すること。

⑤　大会中に大きな声で会話、応援等しないこと。

⑥　感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。

⑦　大会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

（３）大会参加者への対応

１）体調の確認

主催者は、大会当日に、参加者から以下の事項を記載した書面を求めることが必要である。

①　氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取り扱いに十分注意する。

②　大会当日の体温。

③　大会前 2 週間における以下の事項（（１）①～⑦）の有無。

２）マスク等の準備（屋外で十分な距離が確保できる場合は除く）

主催者は、参加者がマスクを準備しているか確認することが必要です。なお、競技中のマスクの着用は参加者等の判断によるものとするものの、競技中以外、控室での着替えや会話をする際はマスクの着用を求める。

３）大会参加前後の留意事項

大会に参加する個人や団体は、大会前後のミーティング等においても、３密を避けること、会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分配慮することが求められます。

３ 大会開催の基準

（２）開催方法 必要最低限の人数で実施

①　選手：エントリー選手以外は会場に入れない。ただし、個人種目で１名のみで参加している場合はその限りではない。

②　競技役員・大会補助員：試合に必要な最低限の人数とする。

③　応援：感染拡大の状況を鑑み、当面の間、無観客又は入場制限を行うことを考える。

（３）競技会場及び競技上の留意事項(基本的な感染対策)

①　競技会場において、手洗いや咳エチケット（マスクの着用の推奨）などの基本的な感染症対策を徹底するよう

指導する。特に、会場出入り口にはアルコール消毒薬を設置し、トイレに石鹸 等準備する。

②　競技中の水分補給に関してはチーム共用を避け、個人のものを使用する。

③　競技における適切な環境の保持のため、会場内の換気（できれば 2 方向の窓を同時に開ける）の徹底。空調や衣服による

温度調節を含めて、温度、湿度管理に努める。

④　人が集まる場所（待機場所）では社会的距離２メートルを保ち待機させる。

⑤　常時解放できない競技は 30 分に一度一斉換気を行う。

⑥　共有物の適正な管理又は消毒を徹底する。

⑦　握手やハイタッチ、肩を組むなどの身体接触を避け、近距離での会話や発声はしないこと。応援は拍手のみで

行う。

（４）健康観察の実施

大会に参加するすべての者（選手、顧問、大会役員等会場に入るすべての者）検温を実施。

①　特に選手は引率者が責任をもって検温結果を確認すること。

②　引率者は、試合前に選手の健康状況（含む検温状況）を確認し、体調不良の選手については保護者及び学校管

理職に連絡の上参加させないようにする。選手の健康状況については、引率者から専門委員長に報告し、専門

委員長は大会運営に支障がある場合にはその結果を各ブロック理事長に報告する。

（５）開会式・閉会式について

開・閉会式は実施しない。

（７）部員又は部顧問（関係指導者）の感染が判明した場合の考え方

１）大会前

　①　部員又は部顧問の感染が判明した場合には、当該部員、顧問また、濃厚接触者と特定された者の出場は認めな

い。

　②　団体競技においては、参加申込後の選手交代を認める。

　③　個人競技においては欠場とする。（補欠の繰り上げ出場は認める。）

２）大会期間中

①　発熱等の症状がみられる場合、大会出場を認めない。（各学校で指示しておくこと。）

②　当日、急に症状が出た場合は、保護者及び各学校管理職に連絡し帰宅させる。

　③　他の選手等への健康観察を徹底する。

　※その後、新型コロナウイルスに感染したことが確認された場合は各学校や行政機関指示に従うこと。その経過等については、ブロック理事長を通じて高体連に報告すること。県教育委員会と 合議のうえ、その後の大会運営について中止、または延期をお願いすることがある。

（８）大会参加申込について

　①　顧問は必ず、選手及び保護者から大会参加の同意書を取り、校長責任のもと申し込みを行う。同意書は各学校で保管すること。

　②　大会参加を強要することがないよう配慮すること。

「日本卓球協会における新型コロナウイルス感染症対策」（抜粋）（２０２０年８月１４日版・２-３週毎に改訂）

　日本卓球協会では、各地域での卓球練習、競技大会の再開を念頭に『新型コロナウイルス感染症対策』を作成し

ました。このガイドラインは、日本スポーツ協会による「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドラ

イン」をもとに国際卓球連盟（ITTF）のガイドラインに掲載されている競技特性を踏まえた注意事項等を加味して

作成したものです。

（２）当日の参加受付時の留意事項

　　⑦　参加者から以下の事項を記載した書面の提出を求めること

* 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）
  + 個人情報の取り扱いに十分注意する

（大会エントリー時に連絡先が登録されていれば、当日の提出は氏名と体温、症状の有無のみで可）

* 大会当日の体温
* 大会前２週間における以下の事項の有無

・平熱を超える発熱（おおむね３７度５分以上）

・咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状

・だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）

・嗅覚や味覚の異常

・体が重く感じる、疲れやすい等

・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無

・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方が発生

・過去１４日以内に政府から入国規制、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は

当該在住者との濃厚接触

（４）卓球競技会場、試合進行上の特別処置

１）換気

　　　①　換気設備を適切に運転し、十分な換気を行うこと

　　　②　競技場内の部屋（役員室、更衣室）の利用にあたっては、２時間ごとに十分な換気を行うこと

　　２）卓球台の設置、卓球台、ボールの消毒

　　　①　卓球台は十分な間隔を開けて設置する（４m 以上） 。

②　卓球台およびボールを消毒する場合には製造元のメーカーのホームページを参照するかメーカーにお問

い合わせ下さい。

【参考】卓球台およびボールの消毒

◇　70%アルコール：使用不適；卓球台、ボールの品質に悪影響を与えます。

◇　塩素系漂白剤 （次亜塩素酸ナトリウム 0.05%に希釈）：同上

◇　次亜塩素酸水：効果が不明確であり、現時点では推奨致しません。

（次亜塩素酸ナトリウム希釈液と間違わないようにご注意下さい。）

◇　台所用合成洗剤または住宅・家具用洗剤（界面活性剤を含む製品）を希釈 して消毒に用いる場合は、

卓球台、ボールにより影響が異なるため、各メーカーのホームページを参照するかメーカーにお問い

合わせ下さい。

◇　頻回の手洗いによる除菌、感染予防に努めて下さい

・現在のところ、卓球台、ボールに適用可能となる完璧な消毒方法は判明しておりません。このため

以下の対応をお願いします。

・卓球台、ボールに触れた手で顔（特に眼、鼻、口）を触らないように努めて下さい。ウイルスが手

に付着しても顔に触れないようにすることにより感染のリスクを低下させられます。また、手につ

いたウイルスは、練習の合間の手洗いにより除菌することが出来ます。

３）選手・コーチ用ベンチ、審判席、カウンター等の消毒

次亜塩素酸水、70%アルコール、次亜塩素酸ナトリウム（0.05%希釈）、界面活性剤等で各試合終了後に消毒する。

４）試合

当面の間、ゲームごとのチェンジエンドは行なわない。

３．卓球競技大会開催時の感染防止策について（参加者）

（１）参加者が遵守すべき事項

※　高体連の「ガイドライン」２ 大会開催・実施時の感染防止策について（１）大会参加者への事前対応１）

　　以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること①～⑦参照

８）大会前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避けること

（２）試合を行う際の留意点

１）当面の間、チェンジエンドは行なわない

２）タオルの共用はしない

２）飲料は自分専用のものを飲み、回し飲みはしない

３）卓球台の上で手を拭いたりしない

４）シューズの裏を手で拭くことはしない

５）握手などの身体を接触させる挨拶は行なわない

**第７回井上正喜杯秋季筑豊卓球選手権大会（一般の部）**

**大 会 参 加 者 健 康 状 態 申 告 書**

　新型コロナウイルス感染症への感染防止のため、大会にあたって以下の情報について申告し、参加に同意いたします。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| １ | ふりがな  選手氏名・年齢 | ・　　　　歳 | | |
| ２ | 大会前２週間における状況の有無（該当する□に✔をしてください。） | | | |
| (１) | 海外への渡航または海外渡航者との濃厚接触 | | * あり | * なし |
| (２) | 平熱を超える発熱（おおむね37度5分以上） | | * あり | * なし |
| (３) | せき、のどの痛みなど風邪のような症状 | | * あり | * なし |
| (４) | だるさ、体が重い、疲れやすい、息苦しい、息切れ、 | | * あり | * なし |
| (５) | 嗅覚、味覚の異常 | | * あり | * なし |
| (６) | 嘔吐、下痢 | | * あり | * なし |
| (７) | 突然の関節痛、突然の筋肉痛 | | * あり | * なし |
| (８) | 原因不明の疲労感 | | * あり | * なし |
| (９) | 新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症陽性とされた者との濃厚接触 | | * あり | * なし |
| (10) | 同居家族や身近な知人に感染が疑われる者が発生 | | * あり | * なし |
|  | | | | |

**※ 大会当日、朝の集合時にチームの大会申し込み責任者に、必ずご提出ください。**